

中谷勇

苗木の詩

友だちと

かえなかった小さな命の
おはかを ほうむった日

ここに泊まるんだと

敷布にしゃがんだ 夕暮れ

向こうから見て

白いものがあると
来てみたの

はやく 帰ろう、と斜面を登って来たひとがいた

社会の中で

ときどき 山の斜面で空を見ている苗木のような
心の持ち主に 出会う

自分には どうすることもできないけれど